

# 鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 58号  
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会  
発行日 2011. 7. 20  
編集 芳村恵子  
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

## H23年度

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会総会

日時：H23年6月18日（土）

会場：上井公民館（倉吉市）

出席者：馬屋原事務局長・伊藤・山本・  
清水・西浦・菊澤・新川・井上・  
東・万木・西上・芳村

H22年度の活動の総括と経過報告及び、  
H23年度の基本方針・活動方針が資料に沿っ  
て述べられた。

今年度の事業計画について、以下のように  
予定された。

中四国アドバイザー研究集会徳島大会

期日 9月10日～11日

会場 大歩危 祖谷阿波温泉『あわの抄』

<出席者は7月20日までに、事務局へ  
連絡すること。>

第1回研修会 10月上旬予定

講師 伊藤肇さん

第2回研修会 12月中旬予定

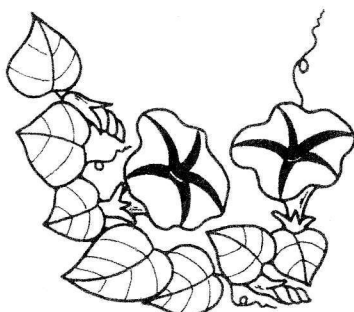
講師 森岡敏人さん

第3回研修会 2月11日（祝）

未定

皆さん、今年度も会員の連携を密にすると  
共に、アドバイザーとしての資質向上に努め  
ましょう。

会場を『スタンダード』に移しての懇親会は、  
松原さんも駆けつけてくださって、楽しく過  
ごしました。



## しゃぼん玉飛んだ

菊澤慧昭

『しゃぼん玉飛んだ 屋根まで飛んだ  
屋根まで飛んで こわれて消えた  
しゃぼん玉消えた 飛ばずに消えた  
生まれてすぐに こわれて消えた  
風、風、吹くな しゃぼん玉飛ばそ』



幼いころ何気なく口ずさんでいた童謡「し  
ゃぼん玉」は、ごく平凡なしゃぼん玉を飛ば  
している情景を歌った歌ではなく、童謡作  
家・野口雨情が我が娘への思いを託した歌だ  
ったのです。

雨情はなかなか子どもが授からず、八年目  
にようやく授かった我が娘を大変可愛がって  
いました。でも、その子は二歳の時、病気で  
亡くなってしまうのです。

それから雨情は悲しみを忘れるために、毎  
日浴びるように酒を飲み、前後不覚になる日  
が続きます。自暴自棄になり、何事も投げや  
りな日々を送っていたある日、夢枕にその子  
が泣きながら現れたのです。

その涙に濡れた瞳を見て、雨情ははっとし  
て我に返り、「お父さんは、お前の分まで一生  
懸命生きたと言えるようになるろう。」と決意し、  
『しゃぼん玉』を書き、『七つの子』『青い目  
の人形』『十五夜お月さん』など素晴らしい童  
謡を後世に書き残したのです。

子に導かれて自らの人生に子供の人生を重  
ね合わせ、かけがえのない人生を二倍にも輝  
かせた雨情。

裏面に続く

私達も、どんな苦しみに遭おうとも常に前向きに、自らの人生にしっかりと腰を落ち着かせ、親子のきずなを大切にしながら、道を切り開いてまいりましょう。必ず救いは現れるはずです。

時には家庭で子供の言葉に耳を傾け、家族で話し合う時間を持ちましょう。きっと新しい発見があるでしょう。

## 「May I help you ?」

芳村 恵子

先日、ある小学校から、「キャリア教育」にお招き頂きました。キャリア教育とは、「各分野で活躍されている方々をお呼びし、その職業に関するだけでなく、その方々がどのように夢に向かって努力されてきたのか、様々な人との出会いや関わりなどお話をうかがう中で、その方の生き方に学んでいきたいと考えています。」ということでした。

少々荷の重い感じはありましたが、頼まれれば嫌とは言えないもので、楽しみ半分ドキドキ半分で、引き受けました。

「助産師とは」ということや、助産師としての日頃の仕事を通しての話や、予め、質問を頂いていたので、それに応えるようにパソコンでスライドを作ったり、DVDを準備しました。

子ども達は礼儀正しく、話もしっかり聞いてくれました。

質問の中にこんなことがありました。

「私は、友達が悲しんでいる時にどう声をかけていいか分からなかったり、その人の気持ちが分かって上げられなかったりして、悔しい時があります。芳村さんは色々な患者さんに接する時、どうやって相手の気持ちを分かろうとされていますか。」

私達看護職にとってもエンドレスな想いを、小学6年生が、こんな気持ちになるなんてと、人間としての優しさを感じました。

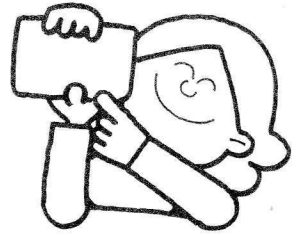
その応答として、相手を大切にしたい方である「May I help you ?」の気持ちで、「聴く」事と、「友達の助けを喜んで受け入れ

る」という、両方のヘルプ上手になることをお話しました。

「May I help you ?」は、以前の職場での合言葉でした。

また私が、助産師として長い間仕事し続けられたのは、家族の協力であったり、職場での友達の支えであったり、何より関わった多くのお母さん方やそのご家族からの「ありがとう」だったこともお話しました。

助産師という仕事の説明だけでなく、生徒さんからの質問に助けられ、何とか私の想いを伝えることができました。



「子ども達からの感想」コーナーでは、次々に手を上げて、感想を語ってくれました。本当に真剣に聴いてくれたんだと嬉しくなり、ありがたくも感じました。

「教えることは学ぶこと」と言われるように、今回に限らず、学校からの出前授業に行かせていただくことで、多くの学びをさせて貰っています。助産師としても、思春期に関わる地域のおばさんとしても、心からの「ありがとう」を言っていただけのように、これからも努力していきたいと思えます。

### 編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

何という猛暑でしょう。家の中でも熱風が吹いていて、熱中症は家でもかかることを納得してしまいます。

遅くなりましたが、58号の発行に漕ぎ着けました。次回は、秋風の吹く頃にと想います。回りの「ありがとう」や、「地域のおじさんおばさん」のご意見をお寄せください。お待ちしております。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp  
(word で入れてください)